

アジア防災センター客員研究員が北海道開発局を訪問しました。



災害対策本部室での説明の様子

平成30年10月10日にアジア地域で自然災害軽減に関する国際協力を推進するアジア防災センター（神戸市）の客員研究員3名（モルディブ、マレーシア、インド）が北海道開発局を訪問し、当局の防災への取組についての講義を聴講後、空知川、金山ダムを視察しました。

講義は災害対策本部室で実施され、当局防災課から当局の防災への取組のほか、9月6日に発生した北海道胆振東部地震の復旧状況、統合災害情報システム「DiMAPS」について説明がありました。視察では、平成28年8月の大雨災害からの復旧状況等について空知川（南富良野町）を見学した後、昭和42年の管理開始から数多くの洪水調節を行い、下流の洪水被害の軽減に貢献してきた金山ダムを見学していただきました。

当局を訪れた客員研究員からは、空知川の復旧工事や地震の被災地の復旧状況が印象に残っており、完成後50年が経過しても金山ダムが非常に良い状態で維持管理されている点に感銘を受けたとのコメントがありました。



熱心に説明を聞く研修員たち



金山ダムの前で写真撮影
(アジア防災センターより写真提供)